

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2018年度 助成者)

作成日 2018年 9月 9日

氏名 (フリガナ)	山口 恵利帆 (ヤマグチ エリホ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2018年8月13日 (月) ~ 8月18日 (土)
大学名	長崎大学医学部医学科
学年	5年

この度、Hawaii Tokai International Collegeにて行われた5日間の研修に参加いたしました。このような機会をいただき、大変感謝しております。以下、ご報告申し上げます。

### 【研修内容】

- ① **Medical Ethics** : 英語のビデオを視聴した後、ファシリテーターの先生方にご指導いただきながら、グループごとに **discussion** を行いました。医療倫理について考え、また日本と米国との文化的・倫理的な相違点・共通点を実感する貴重な機会になりました。
- ② **Medical English** : 問診の取り方やケースプレゼンテーションの型を学びました。短時間で模擬患者の準備を行うことにより、疾患の **characteristics** を捉える力が身につきました。
- ③ **Tours to hospitals** : クアキニ病院、聖ルカクリニック、ハワイ大学医学部を訪問し話を伺いました。国外の医療機関を見学するのは初めてであり、非常に興味をもっていました。日本と米国の医療制度や教育制度の違いを学ぶことができました。
- ④ **Evening Workshops** : 10人程度の少人数で、臨床推論を行いました。問診をとる際に、瞬時に鑑別診断を思い浮かべる必要性を痛感しました。英語が重要なのはもちろんですが、効率的な問診、わかりやすいケースプレゼンテーションを実践するためには、推論を組み立てる **logic** が最も重要であると思いました。オリエンテーションの際に小林先生から **logic** が最も重要であると伺っていましたが、それを実感する機会でした。
- ⑤ **Clinical Practice** : ハワイ大学の医学部生を模擬患者として問診を行った後、指導医の先生方にケースプレゼンテーションを行い、**feedback** をいただきました。  
このトレーニングを通じ、まず多くの鑑別診断を挙げ、その後診断名を絞ることが重要であることを学びました。また、プレゼンテーションは、鑑別診断名を支持、あるいは **less likely** であるとする記述を散りばめることで、聞き手が聞きながら鑑別診断を思い浮かべ主診断まで至ることのできるものが理想的であるということを学びました。**feedback** では問診における情報量が増え、プレゼンテーションが上達したとの評価をいただき、大変うれしく思いました。
- ⑥ **Special Lectures** : アメリカの医療や日常生活について具体的な話をしていただいたので、アメリカで医師として働くことの具体的なイメージを得ることができました。

### 【感想】

今回の研修で最も貴重な経験となったのは、問診の取り方やケースプレゼンテーションの型を系統立てて教えていただいたことです。これまで集中的に学んだことのない分野だったこともあり、苦手意識がありました。**Medical English**、**Clinical Practice** を通じて、何度も実践と **feedback** のサイクルを繰り返すことで、この型を少しずつ自分のものにでき始めたように思います。この学びは、日本で診療を行う際にも有用なものだと思います。今後とも実践を繰り返すことで、今回得た貴重な経験を今後活かします。

また、上記の経験に加え、本プログラムを通じて先生方、他の医学生と時を同じくした経験は得難いものでした。

改めて、このように貴重な機会をいただき感謝申し上げます。ありがとうございました。